

平成 25 年度 鹿児島大学 2 次試験前期日程 (数学問題)

理・工・医・歯・農・水産・共同獣医・教育学部

平成 25 年 2 月 25 日

- 理 [数理・物理・地環]・工・医 [医]・歯学部は, [1] ~ [4] 必答, [5] ~ [8] から 1 問選択. 数 II・III・A・B・C(120 分)
- 理 [生命化], 医 [理学療法]・農・水産・共同獣医学部は, [1] ~ [3] 数 II・A・B(90 分)
- 教育 [数学・理科・技術・教育・心理・家政・国語・社会・英語・特別支援教育・健康教育] 学部は, [1], [3] 必答, [2], [9] の 2 題から 1 問選択. 数 II・A・B または 数 III・A・B(90 分)

1 次の各問いに答えよ.

- (1) 四角形 ABCD において, 線分 AC と線分 BD の交点を P とし, $\angle DAC = \angle CBD$, $AC = 8$, $AP = 2$, $PD = 4$ とする. このとき BD の長さを求めよ.
- (2) 平面上で 2 つの円を考える. 共通接線がちょうど 3 本引けるような 2 つの円の位置関係の例を図示せよ. また, 3 本の共通接線も描け.
- (3) 3 個のさいころを同時に投げるとき, 3 個の目の積が 3 の倍数である確率を求めよ.
- (4) a, b を実数とする. 命題「 $ab = 0$ ならば, $a = 0$ かつ $b = 0$ 」の逆と対偶を書き, それぞれの真偽を答えよ.

2 次の各問いに答えよ.

- (1) 次の (i), (ii) に答えよ.
 - (i) m, n が自然数ならば, $\frac{m}{n} \neq \sqrt{2}$ である. このことを証明せよ.
 - (ii) p, q が自然数ならば, $\sqrt{2}$ は $\frac{p}{q}$ と $\frac{2q}{p}$ の間にある.
すなわち, $\frac{p}{q} < \sqrt{2} < \frac{2q}{p}$ または $\frac{2q}{p} < \sqrt{2} < \frac{p}{q}$ が成り立つ.
このことを証明せよ.
- (2) 定数 a は実数で, $a > 0$, $a \neq 1$ とする. このとき, すべての正の実数 x, y に対して $x^{\log_a y} = y^{\log_a x}$ が成り立つ. このことを証明せよ.

3 次の各問いに答えよ.

(1) 三角形 ABC の垂心を H とする. 次の等式が成り立つことを示せ.

$$\overrightarrow{HA} \cdot \overrightarrow{HB} = \overrightarrow{HB} \cdot \overrightarrow{HC} = \overrightarrow{HC} \cdot \overrightarrow{HA}$$

ただし, 三角形の各頂点から向かい合う辺またはその延長に下ろした 3 本の垂線は 1 点で交わる. この点を三角形の垂心という.

(2) 次の (i), (ii) に答えよ.

(i) 自然数 n に対して自然数 a_n を次のように定義する.

$$a_n = (2n - 1) \cdot (2n - 3) \cdot \dots \cdot 3 \cdot 1$$

このとき, すべての自然数 k に対して $(2k)! = 2^k k! a_k$ が成り立つ. このことを証明せよ.

(ii) すべての自然数 n に対して, $2^n!$ は $2^{(2^n-1)}$ で割り切れる. このことを数学的帰納法で証明せよ.

4 次の各問いに答えよ.

(1) $\int_{-\pi}^{\pi} x \sin x \, dx$ を求めよ.

(2) $\int_{-\pi}^{\pi} \sin 2x \sin 3x \, dx$ を求めよ.

(3) m, n を自然数とする. $\int_{-\pi}^{\pi} \sin mx \sin nx \, dx$ を求めよ.

(4) $\int_{-\pi}^{\pi} \left(\sum_{k=1}^{2013} \sin kx \right)^2 dx$ を求めよ.

5 2 次の正方行列 $A = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix}$ に対して, $\Delta(A) = ad - bc$ とおく. たとえば単位行列 $E = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$ に対しては $\Delta(E) = 1 \times 1 - 0 \times 0 = 1$ となる. また $K = \begin{pmatrix} 2 & 3 \\ 5 & 7 \end{pmatrix}$ に対しては $\Delta(K) = 2 \times 7 - 3 \times 5 = -1$ となる. 次の各問いに答えよ.

(1) $P = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 2 & 3 \end{pmatrix}$, $Q = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{pmatrix}$ に対して $R = PQ$ とおく. $\Delta(P)$, $\Delta(Q)$, $\Delta(R)$ を計算し, $\Delta(R) = \Delta(P)\Delta(Q)$ が成り立つことを確かめよ.

(2) すべての 2 次の正方行列 A , B に対して, $C = AB$ とおくと $\Delta(C) = \Delta(A)\Delta(B)$ が成り立つことを示せ.

(3) $X^2 = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}$ となる 2 次の正方行列 X ですべての成分が実数であるものは存在しないことを示せ.

(4) 2 次の正方行列 A に逆行列 B が存在したとする. A と B の成分がすべての整数ならば, $\Delta(A)$ は 1 か -1 のどちらかである. このことを示せ.

6 xy 平面において, 点 $F(p, 0)$ と y 軸から等距離にある点の軌跡を C とする. ただし, $p > 0$ とする. 次の各問いに答えよ.

(1) C を表す方程式を求めよ.

(2) C 上の点 $P(x_0, y_0)$ における C の接線 l の方程式を求めよ. ただし, $y_0 \neq 0$ とする.

(3) (2) の l と x 軸の交点を Q とするとき, $FP = FQ$ であることを証明せよ.

7 0, 1, 2, 3, 4 の数字が 1 つずつ記入された 5 枚のカードがある. この 5 枚のカードの中から 1 枚引き, 数字を記録して戻すという作業を 3 回繰り返す. ただし, 3 回ともどのカードを引く確率も等しいとする. 記録した 3 つの数字の最小値を X とするとき, 次の各問いに答えよ.

(1) $k = 0, 1, 2, 3, 4$ に対して確率 $P(X \geq k)$ を求めよ.

(2) 確率変数 X の確率分布を表で表せ.

(3) 確率変数 X の平均 (期待値) $E(X)$ を求めよ.

(4) 確率変数 X の分散 $V(X)$ を求めよ.

- 8 確率変数 X のとる値の範囲が $0 \leq X \leq 2$ で、その確率密度関数 $f(x)$ が次の式で与えられるものとする。

$$f(x) = \begin{cases} \frac{k}{a}x & (0 \leq x \leq a) \\ \frac{k}{2-a}(2-x) & (a < x \leq 2) \end{cases}$$

ここで、 a, k は $0 < a < 1, k > 0$ を満たす定数である。次の各問いに答えよ。

- (1) 定数 k の値を求めよ。
 - (2) X の平均 (期待値) $E(X)$ を a を用いて表せ。
 - (3) $P(X \leq u) = 0.5$ となる実数 u を a を用いて表せ。
- 9 xy 平面において、曲線 $y = e^x$ と 3 直線 $y = x + 1, x = 1, x = -1$ で囲まれた部分を D とする。ただし e は自然対数の底である。次の各問いに答えよ。
- (1) 関数 $f(x) = e^x - (x + 1)$ の増減, 極値, 凹凸を $-1 \leq x \leq 1$ の範囲で調べ, 増減表にまとめよ。
 - (2) D を図示せよ。
 - (3) D を x 軸のまわりに 1 回転させてできる回転体の体積 V を求めよ。

正解

- 1 (1) $\angle DAC = \angle CBD$ であるから、円周角の定理により、四角形 ABCD は円に内接する。

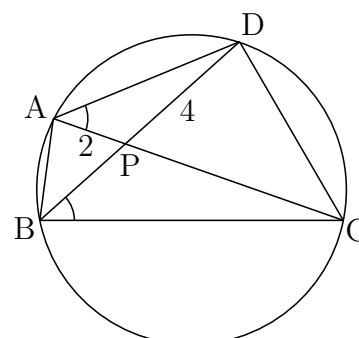
$$AC = 8, AP = 2 \text{ より } PC = 6$$

方べきの定理により

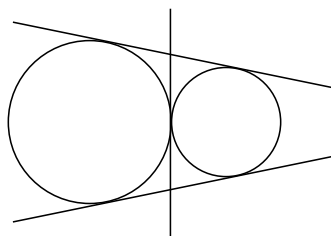
$$PA \cdot PC = PB \cdot PD \quad \text{ゆえに} \quad 2 \cdot 6 = PB \cdot 4$$

$$\text{したがって } PB = 3$$

$$\text{よって } BD = PB + PD = 3 + 4 = 7$$



- (2) 共通接線が3本引けるのは、2円が外接するときで、次の図のようになる。



- (3) 3個とも3の倍数の目でない確率は $\left(\frac{4}{6}\right)^3 = \frac{8}{27}$

求める確率は、この余事象(少なくとも1個は3の倍数)の確率であるから

$$1 - \frac{8}{27} = \frac{19}{27}$$

- (4) 逆の命題は「 $a = 0$ かつ $b = 0$ ならば $ab = 0$ 」(真)
 対偶命題は「 $a \neq 0$ または $b \neq 0$ ならば $ab \neq 0$ 」(偽)(反例 $a = 0, b = 1$)

2 (1) (i) m と n の最大公約数を G とし

$$m = Gm', \quad n = Gn'$$

とすると (m', n' は互いに素)

$$\frac{m}{n} = \frac{m'}{n'}$$

が成り立つ. ここで, $\frac{m'}{n'} = \sqrt{2}$ であると仮定すると

$$m' = \sqrt{2}n'$$

この両辺を平方すると

$$m'^2 = 2n'^2$$

よって, m'^2 は偶数, すなわち m' は偶数である. 偶数 m' はある自然数 k を用いて, $m' = 2k$ と表されるから

$$(2k)^2 = 2n'^2 \quad \text{ゆえに} \quad 2k^2 = n'^2$$

よって, n'^2 は偶数となり, n' も偶数である.

m' と n' がともに偶数となることは, m' と n' が互いに素であることに反する.

したがって $\frac{m'}{n'} \neq \sqrt{2}$ よって $\frac{m}{n} \neq \sqrt{2}$

(ii) i) の結果から, p, q が自然数ならば $\frac{p}{q} \neq \sqrt{2}$ であるから

$$\frac{p}{q} < \sqrt{2} \text{ のとき } \frac{q}{p} > \frac{1}{\sqrt{2}} \quad \text{すなわち} \quad \frac{2q}{p} > \sqrt{2}$$

$$\frac{p}{q} > \sqrt{2} \text{ のとき } \frac{q}{p} < \frac{1}{\sqrt{2}} \quad \text{すなわち} \quad \frac{2q}{p} < \sqrt{2}$$

よって, $\frac{p}{q} < \sqrt{2} < \frac{2q}{p}$ または $\frac{2q}{p} < \sqrt{2} < \frac{p}{q}$ が成り立つ.

(2) $b = x^{\log_a y}$, $c = y^{\log_a x}$ とおき, 2式の両辺を a を底とする対数をとると

$$\begin{aligned} \log_a b &= \log_a x^{\log_a y} & \log_a c &= \log_a y^{\log_a x} \\ &= \log_a y \log_a x & &= \log_a x \log_a y \end{aligned}$$

ゆえに $\log_a b = \log_a c$ すなわち $b = c$ よって $x^{\log_a y} = y^{\log_a x}$

3 (1) $\overrightarrow{HA} \perp \overrightarrow{BC}$ であるから $\overrightarrow{HA} \cdot \overrightarrow{BC} = 0$ より

$$\overrightarrow{HA} \cdot (\overrightarrow{HC} - \overrightarrow{HB}) = 0$$

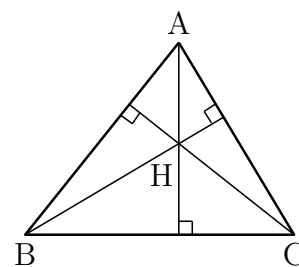
ゆえに $\overrightarrow{HC} \cdot \overrightarrow{HA} = \overrightarrow{HA} \cdot \overrightarrow{HB} \quad \dots \textcircled{1}$

また $\overrightarrow{HB} \perp \overrightarrow{CA}$ であるから $\overrightarrow{HB} \cdot \overrightarrow{CA} = 0$ より

$$\overrightarrow{HB} \cdot (\overrightarrow{HA} - \overrightarrow{HC}) = 0$$

ゆえに $\overrightarrow{HA} \cdot \overrightarrow{HB} = \overrightarrow{HB} \cdot \overrightarrow{HC} \quad \dots \textcircled{2}$

①, ② より $\overrightarrow{HA} \cdot \overrightarrow{HB} = \overrightarrow{HB} \cdot \overrightarrow{HC} = \overrightarrow{HC} \cdot \overrightarrow{HA}$



(2) (i) $a_k = \prod_{j=1}^k (2j - 1)$ であるから

$$\begin{aligned} (2k)! &= \prod_{j=1}^k 2j(2j - 1) \\ &= \left(\prod_{j=1}^k 2 \right) \left(\prod_{j=1}^k j \right) \left\{ \prod_{j=1}^k (2j - 1) \right\} \\ &= 2^k k! a_k \end{aligned}$$

(ii) 「自然数 n に対して, $2^n!$ は $2^{(2^n-1)}$ で割り切れる」を (*) とする.

[1] $n = 1$ のとき, $2^1! = 2$ は $2^{(2^1-1)} = 2$ で割り切れる.

よって, $n = 1$ のとき, (*) が成り立つ.

[2] $n = k$ のとき, (*) が成り立つと仮定すると, 整数 l を用いて

$$2^k! = l \cdot 2^{(2^k-1)}$$

とおける. (i) の結果を利用して

$$\begin{aligned} 2^{k+1}! &= (2 \cdot 2^k)! = 2^{2^k} (2^k!) a_{2^k} \\ &= 2^{2^k} l \cdot 2^{(2^k-1)} a_{2^k} \\ &= 2^{(2^k+2^k-1)} l \cdot a_{2^k} \\ &= 2^{(2 \cdot 2^k-1)} l \cdot a_{2^k} = 2^{(2^{k+1}-1)} l \cdot a_{2^k} \end{aligned}$$

よって, $n = k + 1$ のときも, (*) が成り立つ.

[1], [2] より, すべての自然数 n について, (*) が成り立つ.

$$\begin{aligned}
 \boxed{4} \quad (1) \quad \int_{-\pi}^{\pi} x \sin x \, dx &= 2 \int_0^{\pi} x \sin x \, dx = 2 \int_0^{\pi} x(-\cos x)' \, dx \\
 &= 2 \left[-x \cos x \right]_0^{\pi} - 2 \int_0^{\pi} (-\cos x) \, dx \\
 &= 2\pi + 2 \left[\sin x \right]_0^{\pi} = \mathbf{2\pi}
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 (2) \quad \int_{-\pi}^{\pi} \sin 2x \sin 3x \, dx &= 2 \int_0^{\pi} \sin 2x \sin 3x \, dx \\
 &= \int_0^{\pi} (-\cos 5x + \cos x) \, dx \\
 &= \left[-\frac{1}{5} \sin 5x + \sin x \right]_0^{\pi} = \mathbf{0}
 \end{aligned}$$

(3) $m = n$ のとき

$$\begin{aligned}
 (\text{与式}) &= 2 \int_0^{\pi} \sin^2 mx \, dx \\
 &= \int_0^{\pi} (1 - \cos 2mx) \, dx \\
 &= \left[x - \frac{1}{2m} \sin 2mx \right]_0^{\pi} = \mathbf{\pi}
 \end{aligned}$$

$m \neq n$ のとき

$$\begin{aligned}
 (\text{与式}) &= 2 \int_0^{\pi} \sin mx \sin nx \, dx \\
 &= \int_0^{\pi} \{-\cos(m+n)x + \cos(m-n)x\} \, dx \\
 &= \left[-\frac{1}{m+n} \sin(m+n)x + \frac{1}{m-n} \sin(m-n)x \right]_0^{\pi} = \mathbf{0}
 \end{aligned}$$

(4) (3) の結果を利用すると

$$\begin{aligned}
 \int_{-\pi}^{\pi} \left(\sum_{k=1}^{2013} \sin kx \right)^2 dx &= \int_{-\pi}^{\pi} \left(\sum_{m=1}^{2013} \sin mx \right) \left(\sum_{n=1}^{2013} \sin nx \right) dx \\
 &= \sum_{m=1}^{2013} \int_{-\pi}^{\pi} \sin^2 mx \, dx \\
 &= \sum_{m=1}^{2013} \pi = \mathbf{2013\pi}
 \end{aligned}$$

$$\boxed{5} \quad (1) \quad P = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 2 & 3 \end{pmatrix} \text{ より } \Delta(P) = 0 \cdot 3 - 1 \cdot 2 = -2$$

$$Q = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{pmatrix} \text{ より } \Delta(Q) = 1 \cdot 4 - 2 \cdot 3 = -2$$

$$R = PQ = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 2 & 3 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 3 & 4 \\ 11 & 16 \end{pmatrix}$$

$$\text{よって } \Delta(R) = 3 \cdot 16 - 4 \cdot 11 = 4 = (-2) \cdot (-2) = \Delta(P)\Delta(Q)$$

$$(2) \quad A = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix}, \quad B = \begin{pmatrix} x & y \\ z & u \end{pmatrix} \text{ とすると}$$

$$\Delta(A) = ad - bc, \quad \Delta(B) = xu - yz$$

$$C = AB = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x & y \\ z & u \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} ax + bz & ay + bu \\ cx + dz & cy + du \end{pmatrix} \text{ より}$$

$$\begin{aligned} \Delta(C) &= (ax + bz)(cy + du) - (ay + bu)(cx + dz) \\ &= (ad - bc)xu - (ad - bc)yz \\ &= (ad - bc)(xu - yz) \\ &= \Delta(A)\Delta(B) \end{aligned}$$

$$(3) \quad F = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix} \text{ より } \Delta(F) = 0 \cdot 0 - 1 \cdot 1 = -1$$

$X^2 = F$ であるから, (2) の結果を利用して

$$\Delta(X^2) = \Delta(F) \quad \text{ゆえに} \quad \{\Delta(X)\}^2 = -1$$

正方行列 X の成分は実数であるから, これをみたす X は存在しない.

$$(4) \quad AB = E \text{ であるから}$$

$$\Delta(A)\Delta(B) = \Delta(E) \quad \text{ゆえに} \quad \Delta(A)\Delta(B) = 1$$

A, B の成分がすべて整数であるから, $\Delta(A), \Delta(B)$ は整数である.
よって, $\Delta(A)$ は 1 か -1 のどちらかである.

- 6 (1) C 上の点 (x, y) が $F(p, 0)$ と y 軸から等距離にあるので

$$\sqrt{(x-p)^2 + y^2} = |x| \quad \dots \textcircled{1}$$

ゆえに $(x-p)^2 + y^2 = x^2$ 整理すると $y^2 = 2px - p^2$

- (2) $y^2 = 2px - p^2$ の両辺を x で微分すると

$$2y \frac{dy}{dx} = 2p \quad \text{ゆえに} \quad \frac{dy}{dx} = \frac{p}{y}$$

C 上の点 $P(x_0, y_0)$ における接線 l の方程式は ($y_0 \neq 0$)

$$y - y_0 = \frac{p}{y_0}(x - x_0) \quad \text{ゆえに} \quad y_0 y - y_0^2 = px - px_0$$

$y_0^2 = 2px_0 - p^2$ であるから $y_0 y = p(x + x_0 - p)$

- (3) $P(x_0, y_0)$ は, C 上の点であるから, ①より

$$FP = \sqrt{(x_0 - p)^2 + y_0^2} = |x_0|$$

(2)の結果から, l の x 軸との交点 Q の座標は $(p - x_0, 0)$

これと $F(p, 0)$ から $FQ = |x_0|$ よって $FP = FQ$

- 7 (1) $k = 0, 1, 2, 3, 4$ に対する確率 $P(X \geq k)$ は、3回とも k 以上のカードである確率であるから

$$P(X \geq k) = \left(\frac{5-k}{5}\right)^3$$

- (2) (1) の結果から

- i) $k = 0, 1, 2, 3$ のとき

$$\begin{aligned} P(X = k) &= P(X \geq k) - P(X \geq k+1) \\ &= \left(\frac{5-k}{5}\right)^3 - \left(\frac{4-k}{5}\right)^3 \end{aligned}$$

- ii) $k = 4$ のとき

$$P(X = 4) = P(X \geq 4) = \left(\frac{5-4}{5}\right)^3 = \frac{1}{125}$$

- i), ii) より, X の確率分布は次のようになる.

X	0	1	2	3	4	計
P	$\frac{61}{125}$	$\frac{37}{125}$	$\frac{19}{125}$	$\frac{7}{125}$	$\frac{1}{125}$	1

- (3) (2) の結果から

$$E(X) = 0 \times \frac{61}{125} + 1 \times \frac{37}{125} + 2 \times \frac{19}{125} + 3 \times \frac{7}{125} + 4 \times \frac{1}{125} = \frac{100}{125} = \frac{4}{5}$$

$$(4) E(X^2) = 0^2 \times \frac{61}{125} + 1^2 \times \frac{37}{125} + 2^2 \times \frac{19}{125} + 3^2 \times \frac{7}{125} + 4^2 \times \frac{1}{125} = \frac{192}{125}$$

$$\text{よって} \quad V(X) = E(X^2) - \{E(X)\}^2 = \frac{192}{125} - \left(\frac{4}{5}\right)^2 = \frac{112}{125}$$

$$\begin{aligned} \boxed{8} \quad (1) \quad \int_0^2 f(x) dx &= \int_0^a \frac{k}{a} x dx + \int_a^2 \frac{k}{2-a} (2-x) dx \\ &= k \left[\frac{x^2}{2a} \right]_0^a + k \left[-\frac{(2-x)^2}{2(2-a)} \right]_a^2 = \frac{a}{2}k + \frac{2-a}{2}k = k \end{aligned}$$

$$\int_0^2 f(x) dx = 1 \text{ であるから } \quad \mathbf{k = 1}$$

解説 $\int_0^2 f(x) dx$ は, 3点 $(0, 0)$, (a, k) , $(2, 0)$ を頂点する三角形の面積.

(2) $k = 1$ より

$$\begin{aligned} E(X) &= \int_0^2 x f(x) dx \\ &= \int_0^a \frac{x^2}{a} dx + \int_a^2 \frac{x(2-x)}{2-a} dx \\ &= \left[\frac{x^3}{3a} \right]_0^a + \int_a^2 \left\{ \frac{2(2-x)}{2-a} - \frac{(2-x)^2}{2-a} \right\} dx \\ &= \frac{a^2}{3} + \left[-\frac{(2-x)^2}{2-a} + \frac{(2-x)^3}{3(2-a)} \right]_a^2 \\ &= \frac{a^2}{3} + (2-a) - \frac{1}{3}(2-a)^2 \\ &= \frac{\mathbf{a + 2}}{\mathbf{3}} \end{aligned}$$

$$(3) \quad \int_0^a \frac{x}{a} dx = \left[\frac{x^2}{2a} \right]_0^a = \frac{a}{2} < \frac{1}{2} = 0.5$$

上式および $P(X \leq u) = 0.5$ より $u > a$

$$\begin{aligned} P(X \leq u) &= \int_0^a \frac{x}{a} dx + \int_a^u \frac{2-x}{2-a} dx \\ &= \frac{a}{2} + \left[-\frac{(2-x)^2}{2(2-a)} \right]_a^u \\ &= \frac{a}{2} - \frac{(2-u)^2}{2(2-a)} + \frac{2-a}{2} = 1 - \frac{(2-u)^2}{2(2-a)} \end{aligned}$$

$$\text{したがって } 1 - \frac{(2-u)^2}{2(2-a)} = 0.5 \quad \text{ゆえに } (2-u)^2 = 2-a$$

$a < u < 2$ であるから, $2-u > 0$, $2-a > 0$ より

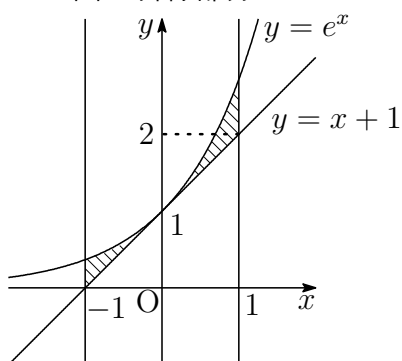
$$2-u = \sqrt{2-a} \quad \text{よって } \mathbf{u = 2 - \sqrt{2-a}}$$

- 9 (1) $f(x) = e^x - (x+1)$ より $f'(x) = e^x - 1$, $f''(x) = e^x$
したがって, $f(x)$ の $-1 \leq x \leq 1$ における増減表は次のようになる.

x	-1	...	0	...	1
$f'(x)$		-	0	+	
$f''(x)$		+	+	+	
$f(x)$	$\frac{1}{e}$	\searrow	0	\nearrow	$e-2$

$x=0$ で極小値 0

- (2) D は図の斜線部分



- (3) 求める体積 V は

$$\begin{aligned}
 V &= \pi \int_{-1}^1 e^{2x} dx - \frac{1}{3} \pi \cdot 2^2 \cdot 2 \\
 &= \pi \left[\frac{e^{2x}}{2} \right]_{-1}^1 - \frac{8}{3} \pi \\
 &= \pi \left(\frac{e^2}{2} - \frac{1}{2e^2} - \frac{8}{3} \right)
 \end{aligned}$$